

礼拝 2020年7月5(日)

題 「神の愛の中で」

テキスト：ローマの信徒への手紙8：31～39

コロナの時代にも、自然の美しさを感じることができることを感謝します。また、このような時にしかできないこともあるように思えます。

ところで人間には、3つのことが大切だと言われます。ギリシア語なのですが聞かれたことがあるかもしれません。その三つの言葉とは「ロゴス」「エートス」「パトス」です。最後に「ス」がつきます。「ロゴス」「エートス」「パトス」。「ロゴス」とは、意味、真理、言葉という意味があります。理性を表すことばです。「エートス」は、「道徳や倫理」つまり、人間の生き方に関するものです。そして「パトス」、これは「感情とか熱情」を表します。

この3つは、人それぞれ持っていると思いますが、人によっては傾向が違っているかもしれません。

さて、今日の聖書の個所は、使徒パウロのパトス、熱情、情熱の強い表れの個所だと言われています。ローマの信徒への手紙5章～8章のクライマックスの部分だと言われます。パウロはロゴスもエートスもありましたが、パトスが強い人だったように思えます。得に神の愛、キリストの十字架の愛については熱くて激しい。さわったらやけどしてしまいそうぐらいです。

パウロは伝道者として生涯2万キロにわたって、イエス・キリストを各地の人々に伝えたと言われます。

パトスの溢れたパウロのことばを学んで行きましょう。

31:では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。

パウロは神は、味方であると言い切ります。神さまは世界で一番強い方ですから、神様が味方なら、この世的に強い者でも、パウロを苦しめて来た苦難や迫害でも誰もパウロや信仰者に敵対できないという確信です。

「32:わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。」とたたみかけています。凄い迫力を感じます。

神は愛する独り子イエスを、この世に、わたしたちに与えてくださったのです。それも十字架の死に渡されたのです。それは、わたしたちがよりよく生き

るためです。ここに神さまのバトスがあります。

33:だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。

「義」とは裁判の用語で、罪なし、それゆえ無罪ということです。

神さまはわたしたちがたとえどんな過ちを犯しても、主イエス・キリストにあって無罪としてくださるといいます。この世的な裁きは受けなければならないような場合でも、キリストの神への真実、それを信じる信仰によって神さまの法廷では無罪とみなしてくださるといいます。

なぜなら、

34:だれがわたしたちを罪に定めることができます。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。

十字架に死んで、復活されたキリスト・イエスがわたしたちのために罪に対する裁きを執り成してくださるのです。うれしくありがたことではないでしょうか。人間、罪のない者は誰もいないのです。もう罪ゆえの裁きを怯えたり、恐れる必要はないのです。

ご存じのように、この世には、様々な困難や悩みや苦しみが 있습니다。仏教では、この世の苦難は四苦八苦と言われます。根本的な苦しきは、四苦です。

四苦は、4つの苦しみのことです。「生、老、病、死（しょうろうびょうし）」です。現実にこの世では誰にでもありえることです。最後は死を迎え、絶望とあきらめが待っています。

しかし、聖書の語る最初で最後の言葉は「希望」です。聖書の信仰は希望の信仰です。キリスト教は希望の宗教です。漫然とした希望ではなく、主イエス・キリストにある希望です。

なぜなら、聖書は愛なる神さまがおられるということを語り、信仰者は四苦八苦しながらも希望を持って生きていけるのです。目的地は、光輝く天の都待っているのです。

すでに、ご存じのようにキリスト者になっても病気を始め現実的な苦しきはなくなることはないのです。また理想的な組織や地上の教会、社会はないのです。みなそれぞれ、苦しみ耐えて、忍耐して生きているのです。

しかし、主イエスは、十字架に至るまでにすべての苦しみを体験して下さった方です。その事を想うと、わたしたちは苦難を耐えやすくなるのです。重荷は負いやすくしてもらえるのです。そして神さまの愛と導きがあることを知り

感謝の心もよみがえり、神を信頼して生きていけるのです。

でも、正直、痛みや呼吸が苦しくなるのは怖い気はしますが、たとえ死の谷を通る時にも、イエス・キリストのとりなしを信じ、神さまの愛と光に包まれて平安に満たされることを信じるのです。

今日の聖書の個所の最後でパウロは言います。

37:しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。

38:わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、

39:高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

主イエスは、罪の裁きと、人生の恐れと明日への不安に勝利された方です。

十字架の死からによみがえらされて死にも勝利されたのです。

主を信じるなら私たちも主イエスの勝利にあずかれるのです。

この世界や宇宙を覆っている様々な霊的力、死の力さえ、神の愛から引き離すことはできなのだと宣言です。ここにパウロの神の愛への溢れるパトスがあります。7月からの歩も、神さまの愛の光の中を私たちは共に生きて行きたいと願います。